

ご挨拶

本学は2014(平成26)年度より、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受けて、取り組みをすすめてきました。今年度はその4年目にあたることから、これまでの成果を報告するとともに、今後の取り組み課題について認識を共有する機会として、このたびの中間成果報告フォーラムを開催する運びとなりました。本学のCOC事業は大きく分けて<教育> <研究> <社会貢献> について取組をすすめてきましたが、いずれも一定の成果を挙げることができていると考えています。

教育においては、7つの学部(通学制)すべてで、初年次から地域と関わり、地域の課題について学ぶ「ふくしコミュニティプログラム」を必修科目または全員履修科目の中で、実践しています。さらに、地域志向科目を10科目20単位以上修得し、その学びのふりかえり(リフレクション)ができた学生を、地域の課題解決に貢献できる「ふくし・マイスター」として認定し、輩出する取組をすすめています。

研究では、本学専任教員や市民研究者から、地域の課題解決に向けて実践的に取り組む研究を公募・助成し、その成果を地域に活かす取り組みをすすめています。地域の企業、事業所、NPO等の組織や自治体の連携・協力も得て、地域課題の解決に繋げていきます。

社会貢献では、連携する3つの市町(美浜町、半田市、東海市)に、市民や学生・教職員が地域のまちづくりについての活動や交流をする拠点として「Cラボ」を開設しています。地域の活性化、防災・減災、空き家の活用などについて、地域の様々な人の参加を得て検討する「地域円卓会議」の開催や具体的な活動支援などの取組をすすめています。

文部科学省からの補助を受けて実施する大学COC事業は、5年目となる来年度が区切りとなります。ただし、本学としてはこの成果をもとに、事業期間終了後も大学と地域との連携をさらに深め、教育の質向上と大学の地域貢献に取り組んでいく所存ですので、市民の皆さま、地域の組織・事業所の皆さま、自治体の皆さまには、引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、お願いする次第です。



日本福祉大学 学長
児玉 善郎
Yoshiro KODAMA

目次

概要

1. ご挨拶
2. 「ふくし・マイスター」とは

教育

3. 「ふくし・マイスター」の養成
4. ふくしコミュニティプログラム
5. 各学部の取り組み - 社会福祉学部
6. 子ども発達学部 / 健康発達学部
7. 経済学部 / 国際福祉開発学科
8. 看護学部 / スポーツ科学部
9. 全学・学部共同・学内での取組
10. 「教育」領域 中間成果

研究

11. 市民研究者 研究概要一覧
12. 地域課題解決型研究 研究概要一覧
13. 研究交流会・報告会の実施
14. 「教育」領域 中間成果

社会貢献

15. 地域連携推進拠点を核とした取り組み
16. 知多半島に広がる協同・協働
17. 「社会貢献」領域 中間成果

COC+

18. 概要 - COC+ とは
19. 教育 - 参加大学で学び合う共有プログラム
20. 教育 - 日本福祉大学生で学び合う 本学独自プログラム
21. ひろがる岐阜県の輪・活動の輪

「ふくし・マイスター」とは

「ふくし」社会を担う人材=ふくし・マイスター

日本福祉大学は、制度中心の従来の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を「ふくし」ととらえて、様々な分野で「ふくし」の視点で活躍できる人材「ふくし・マイスター」を全学部共通の取組として養成します。この「ふくし社会を担う人材=ふくし・マイスター」は、大学の外の地域における他領域の人材や現場との関わりや活動を通じた学びをはじめ、地域について学ぶ地域連携教育により育成されます。

本学の3キャンパスが所在する美浜町、半田市、東海市を中心に、知多半島の多様な地域資源と学生の学びを結び付ける「地域志向学習」を1年次から4年次まで積み重ね、「ふくし社会」を担う力を高めた学生には、「ふくし・マイスター」の修了証が授与されます。

4つの力と期待する役割

「ふくし・マイスター」には、「市民力」「発見力」「率先力」「解決力」という4つの力が求められます。これらの力は、福祉の専門職だけでなく、地域に暮らす一人の市民として、さらにはあらゆる職業に携わるうえでも、広い意味の「ふくし」の実現に貢献するために必要とされる力です。少子高齢化が進み、格差や孤立の問題が深刻化するなど、現代社会は様々な問題を抱えています。地域社会を持続可能にするためには、暮らしや社会の課題に自ら参加して解決する力が必要とされます。これからの社会を担う学生たちには、自ら仕事を見つけだし積極的に役割を担い、複雑な問題を解決する力がより強く求められています。複雑で見えにくい課題に対し、当事者意識を持って向き合うには「ふくし・マイスター」の4つの力が役立つはずです。

市民力

発見力

率先力

解決力

日本福祉大学が目指す「ふくし」社会とは

ふつうのくらしのしあわせ

「ふくし」とは、「ふつうのくらしのしあわせ」を表すもので、より多くの人たちに福祉に関心をもってほしい、身近なものとして捉えてほしいという意図が込められています。「ふつうのくらしのしあわせ」の主人公は、私たち自身です。「福祉」と聞くと、障害のある人やお年寄り、援助を必要とする社会的弱者を思い浮かべるかもしれませんが、しかし、「ふくし」とは他人事なのではなく、一人ひとりが「我が事」として認識することからはじまります。日本福祉大学の使命は、一人ひとりが「ふくし」の実現にむけて主体的に行動する社会にしていけることです。

日本福祉大学では、「建学の精神」のもと「地域に根ざし、世界をみざす『ふくし』の総合大学」として、地域社会と時代が求める人材を養成しています。本学の原点は、まさに「ふくし」人材の養成を通じた社会への貢献にあります。